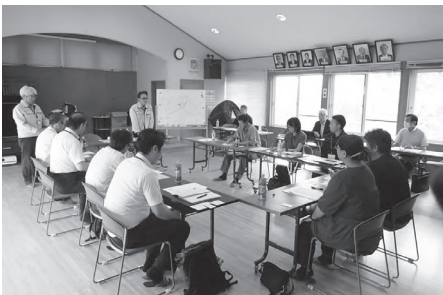


「もしも」を「動ける」に変える。

—市・警察・狩猟団体・地域の連携—

これまで住宅街等での銃猟は原則禁止されていましたが、ヒグマの立てこもりなど膠着状態（手詰まりの状態）にある場合、予防的に市の判断で銃を使用した捕獲等ができる緊急銃猟の制度が創設されました。しかし、住宅街での対応には安全確保や時間の制約があり、実施には高いハードルがあります。こうした課題に対応するため、日頃から地域や関係機関との連携が重要になります。市では昨年、連携を強化するための取り組みを集中的に実施しました。



陣川あさひ町会ヒグマ検討会（令和7年8月）
市と町会の合同で緊急銃猟が行われる際の実際の流れや緊急銃猟以外の捕獲の流れなどについて整理、検討しました。



概法華実施訓練（令和7年11月）
市、警察、狩猟者が合同で実施しました。地域のハンターが参加し、机上による流れの確認のほか現場における実施訓練を行いました。



特集 ヒグマが 生活圏にせまる



陣川あさひ町会
会長 上野山 さん

「ヒグマは餌がないから来ると思っていたが、縄張り争いで追い出された個体が近づくこともあると聞き、いつでも来る可能性があると感じました」と語る町会長。町会では、ゴミ拾い活動時に車を伴走させて警戒を呼びかけるなど、ヒグマを寄せ付けぬ工夫を続けています。

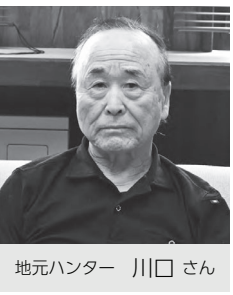
現在の課題は、町会加入の有無に関わらず全住民へ迅速に情報を届ける仕組みづくりです。「市のLINE登録を推奨しつつ、草刈りなど、地域全体で『境界線』を守る対策を強化したい。みんなが正しい知識を持ち、個々の自己防衛と地域の見守りを繋げていきたいですね」と、住民の安全を守る強い意欲を見えています。また、ゴミ拾いの回数を増やすなど、人とヒグマの生活圏を分けるための環境整備にも力を入れていく考えです。

地域で見守る「境界線」の最前線

昨年実施された緊急銃猟の訓練を経て、地元の地形を知り尽くしたベテランハンターは「ルールを厳格に守ろうとすると、どうしてもスピード感が課題になります」と、現場の難しさを語ります。また「住宅街では跳弾の危険やバックストップ（弾を止める場所）の確保など、一発の重みが山林とは比較にならない」と語ります。安全確保の段取りに時間がかかる間に個体を見失う懸念もあり、現場を支える確かな体制が不可欠です。

また、山でヒグマの痕跡を見つけた時は「自分は大丈夫では、次に通る人のために必ず報告してほしい」と強調します。ゴミ出しの徹底など街に呼び寄せない対策と併せ、情報共有による「地域の見守り」が、悲劇を防ぐ鍵となります。

現場のプロが語る、住宅街での緊急銃猟



地元ハンター 川口 さん

—最近よく聞く
アーバンベアって？—

山から下りて街中に侵入するクマのこと。背景には、若い個体の移動や山のエサ不足などが考えられます。また、生ごみや家庭菜園などから人の食べ物の味を覚えると、繰り返し人里に現れ、大変危険な状況になる恐れもあります。

▲令和7年度のヒグマの出没状況
最新の状況は「ひぐまっぶ」のHPで確認できます。
5ページの二次元コードをチェック！

ヒグマはかつて「深い山の生き物」と考えられてきました。しかし近年、市内でも山林に近い地域を中心に、ヒグマの目撃や痕跡の報告が増加しています。昨年度の件数は過去最多となる141件を記録しました。特に、山と住宅地が隣接するエリアでの出没が目立っています。

山から下りて来る背景には、若い個体や繁殖期の親子連れの移動に加え、山林におけるトングリの豊凶や生息域の拡大も考えられます。また、生ごみや家庭菜園などから人の食べ物の味を覚えてしまうと、繰り返し人里に現れる「アーバンベア」につながる恐れもあります。

制度の見直しにより、人命に関わる緊急時の対応ルールは整いつつありますが、住宅街での捕獲活動には常に危険が伴い、決して「すぐに解決できる魔法」ではありません。だからこそ、市・警察・狩猟団体、そして地域が手を携え、訓練を積み重ねる必要があります。

本特集では、緊急銃猟の制度開始に伴い実施した実施訓練や町会での検討会の様子を紹介するとともに、ヒグマを街に引き寄せないためのポイントを解説します。身近な問題となりつつある今、私たち一人ひとりの備えと行動が求められています。


会わない・呼ばない・味を占めさせない

— 今日からできる「防衛マニュアル」—

ヒグマは本来、人を避けて暮らす動物です。彼らを街へ呼び寄せてしまうのは、私たちが無意識に残した「ごみ」や「食べ物の味」かもしれません。山へ入るときは存在を知らせ、街では誘引物を取り除く。この境界線をはっきりさせるシンプルな習慣が、悲劇を防ぐ最大の鍵となります。


山に入るとき6カ条

その1
出没状況を調べる




←ひぐまっぶ


その2
複数人で行動する




その3
薄暗い時間は避ける



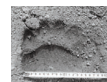
その4
音を鳴らしながら歩く



その5
ゴミを持ち帰る




その6
ヒグマの痕跡を見つけたら
引き返す



ヒグマに出遭ってしまったら… **HP**

走って逃げずに静かに立ち去りましょう

リーフレット「ヒグマとおつきあい（北海道環境生活部）」▶



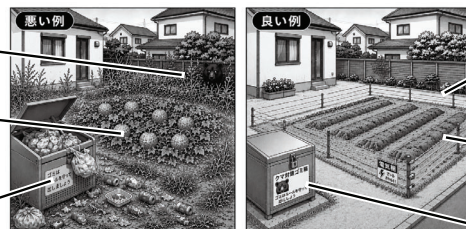
ヒグマを呼ばない自宅の管理

気が付かないうちに呼び寄せているかも！？

✗ 草むらに隠れられる

✗ 畑に収穫物を放置

✗ 生ゴミが見える



悪い例

良い例

○ 見通しは良好

○ 収穫物は速やかに撤去

○ 生ゴミは収集日の朝に出す

エサにしなない・隠れさせない

ヒグマやヒグマの痕跡を見かけたときは・・・

農林整備課 ☎21-3344 または警察へご連絡ください。

近年は、これまで「こんなところにヒグマは来ない」と考えていた場所であっても、注意が必要です。特に森林に近い地域では、生ゴミなど人為的な食べ物の管理を徹底しましょう。クマが開けることのできない強固な構造のゴミ箱を導入することも検討すべきです。

北海道立総合研究機構
エネルギー・環境・地質研究所
釣賀一二三 さん



私たちの街とヒグマの「境界線」

— 「すみ分け」のルールと、緊急銃猟の4条件—

ヒグマとの共生において最も大切なのは、お互いの生活圏を侵さない「すみ分け」です。市では、市内を4つのゾーンに分類し、場所に応じた対応方針を定めています。なかでも、私たちの暮らしがある「排除地域（市街地）」は、ヒグマの侵入を一切許さないエリアです。ここでの安全を脅かす事態が発生した際、人命を守る手段として検討されるのが「緊急銃猟」です。

しかし、住宅街での銃の使用は、これまでにない重い決断と極めて高い安全性が求められます。【制度があるから安心】ではなく、困難な任務に挑む現場のプロたちが、迷いなく、かつ確実に動けるよう、強固な連携体制を築いています。

4つのゾーンと対応方針

 <p>コア生息地 (奥山)</p> <p>ヒグマの生息を前提とするエリア。生息地の保全を優先します。</p>	 <p>緩衝地域 (山と里の境界)</p> <p>里への侵入を防ぐ「防波堤」。春期管理捕獲などで個体数を抑制し、問題を未然に防ぎます。</p>	 <p>排除地域 (農地など)</p> <p>人間活動が盛んなエリア。電気柵などで「寄せ付けなさい」対策と、被害防止のための捕獲を行います。</p>	 <p>排除地域 (市街地)</p> <p>ヒグマの侵入を一切許さないエリア。万が一侵入した際は、迅速に捕獲・排除する体制を整えています。</p>
--	--	---	--

「緊急銃猟」実施の4条件

市街地等においてヒグマが出没した場合、銃を用いた捕獲等を行うことがあります。次の4つの条件が満たされた場合のみ実施されます。

- 1 人の日常生活圏に侵入
- 2 銃猟以外の方法で捕獲等が困難
- 3 人への危害を防止する緊急措置が必要
- 4 人に弾丸が当たるおそれがない

(画像は生成AIで作成したイメージです)

実施する場合には、広報車や自宅訪問、市公式LINE、ANSINメールでお知らせします。安全確保のため、市や警察の指示に従ってください。



ヒグマの痕跡！識別マニュアル

見つけたら、そこはもうヒグマの領域です。静かに引き返し、市や警察へ連絡を！

【足跡】
指が5本あり、鋭い爪跡があればクマ。



【フン】
大きな俵型。食べた植物や果実がそのままの形で混ざっているのが特徴。





HP

詳しくは北海道HPチェック